下沼田西沢遺跡

社会資本総合整備（防災・安全）事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

群馬県沼田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

下沼田西沢遺跡

社会資本総合整備（防災・安全）事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

群馬県沼田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

下沼田西沢遺跡は、沼田市下沼田町に所在し、平成25年度社会資本総合整備交付金事業に伴い群馬県沼田土木事務所から委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施しました。発掘調査に引き続き、平成26年度社会資本総合整備(防災・安全)事業に伴い整理作業を行い、本報告書が刊行されることとなりました。

本調査にかかる事業は、道木佐山沼田線に歩道を設置することにより安全で安心な道路空間を確保する道路整備事業であり、地域の交通安全に寄与することを期待されるものです。

本遺跡は完新世の河岸段丘面である下沼田面の縁辺に位置し、発掘調査の結果、主に古墳時代後期から中世にかけての遺跡であることが確認されました。この調査成果をまとめた本報告書が、地元沼田市をはじめ、郷土群馬県の歴史理解の一助となることを願います。

本報告書の刊行に至るまでには、群馬県沼田土木事務所、群馬県教育委員会、沼田市教育委員会、諸機関並びに関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。心から感謝申し上げるとともに、本報告書が広く活用されることを祈念し、序とします。

平成26年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　　吉野　勉

例　言

1．本書は、平成25年度社会資本総合整備交付金事業に伴い発掘調査し、平成26年度社会資本総合整備(防災・安全)事業に伴い整理作業を行った下沼田西沢遺跡の発掘調査報告書である。

2．下沼田西沢遺跡は、群馬県沼田市下沼田町391−１他に所在する。

3．事業主体は、群馬県沼田土木事務所である。

4．調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

5．発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

　履行期間　平成25年10月１日～平成26年１月31日

　調査期間　平成25年11月１日～平成25年11月30日

　調査担当　菊池実(上席専門員)

　遺跡掘削工事請負　株式会社飯塚組

　地上測量委託　株式会社測研

　空中写真撮影委託　株式会社測研

6．整理事業の調査と体制は次のとおりである。

　履行期間　平成26年７月１日～平成26年10月31日

　整理期間　平成26年７月１日～平成26年８月31日

　整理担当　田村博(主任調査研究員)

7．本書作成担当は次のとおりである。

　編集　田村博

　本文執筆　田村博

　遺物観察　縄文土器：石坂茂(専門調査役)、石器：石田典子(主任調査研究員)、その他：徳江秀夫(上席専門員・資料２課長)

　デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員)

　遺物写真撮影　石器：石田典子、その他：田村博

8．石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

9．出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。記して感謝いたします。

　群馬県教育委員会、沼田市教育委員会

凡　例

1．本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲した。

2．本報告書に用いた座標・方位はすべて国家座標「世界測地系（日本測地系2000平面角座標第Ⅸ系）」による。座標北と真北との偏差はＸ＝73300、Ｙ＝−71630で＋0°28′42.17″である。主軸方位等の計算にもこれを用いた。

3．本報告書の遺構図版縮尺は以下の通り。
溝状遺構1/60、土坑・ピット1/40。

4．本報告書の遺物図版縮尺は以下の通り。
土器・陶磁器1/3、石器1/1

5．本報告書における遺構略称は以下の通り。
溝…溝状遺構、土…土坑、ピ…ピット

6．本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図下に「Ｌ＝○○ｍ」のように表記した。

7．本報告書における土層断面図及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修1988『新版標準土色帳』によった。

8．本報告書におけるテフラ（火山噴出物）の略号は以下の通り（テフラの名称は町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による）。
Ａｓ−Ｂ…浅間Ｂ軽石、Ｈｒ−ＦＡ…榛名二ツ岳テフラ、Ｈｒ−ＦＰ…榛名二ツ岳パミス、ＡＴ…姶良Ｔｎ

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図・表・写真図版目次

第１章　発掘調査の経過
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の経過 …… 2
　第３節　発掘調査の方法 …… 3
　第４節　整理作業の経過と方法 …… 3

第２章　周辺の環境
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 6
　第３節　基本土層 …… 15

第３章　確認された遺構と遺物
　第１節　概要 …… 17
　第２節　溝 …… 17
　第３節　土坑・ピット …… 20
　第４節　遺構外出土遺物 …… 22

第４章　まとめ …… 23

遺物観察表 …… 25

報告書抄録
写真図版

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 ･････････････････････････ 1
第２図　調査区位置図 ･････････････････････････ 2
第３図　周辺地形図 ･････････････････････････ 5
第４図　周辺遺跡分布図 ･････････････････････････ 7
第５図　遺跡基本土層断面図 ･････････････････････････ 15
第６図　調査区全体図 ･････････････････････････ 16
第７図　１号溝･････････････････････････････ 18
第８図　１号溝出土遺物 ･････････････････････････ 19
第９図　２・３号溝 ･････････････････････････ 20
第10図　土坑・ピットおよび出土遺物 ･････････････ 21
第11図　遺構外出土遺物 ･････････････････････････ 22
第12図　周辺奈良・平安時代遺跡分布図 ･････････ 24

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表（１） ･････････････････････ 8
第２表　周辺遺跡一覧表（２） ･････････････････････ 9
第３表　周辺遺跡一覧表（３） ･････････････････････ 10
第４表　周辺遺跡一覧表（４） ･････････････････････ 11
第５表　周辺遺跡一覧表（５） ･････････････････････ 12
第６表　出土遺物観察表 ･････････････････････････ 25

写　真　目　次

ＰＬ．１　１．調査区遠景(南東より)
　　２．調査区近景(南西より)
ＰＬ．２　１．調査区全景(上空より)
ＰＬ．３　１．調査区(北半)全景(南より)
　　２．調査区(南半)全景(南より)
　　３．１号溝全景(南より)
　　４．１号溝土層断面(南東より)
　　５．１号溝焼土分布状況(南より)
ＰＬ．４　１．２・３号溝全景(南西より)
　　２．１・２号土坑全景(西より)
　　３．３号土坑全景(西より)
　　４．１号ピット土層断面(西より)
　　５．調査風景(西より)
ＰＬ．５　１．調査区(北半)土層断面(西より)
　　２．調査区(南半)土層断面(西より)
　　３．１号溝・３号土坑出土遺物
ＰＬ．６　１．遺構外出土遺物

第１章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

１．事業実施に至る経緯

下沼田西沢遺跡の発掘調査は、平成25年度社会資本総合整備交付金事業に伴い実施されたものである。本事業は、通行危険箇所を解消するため道木佐山沼田線に歩道を設置することにより、安全で安心な道路空間を確保する目的の道路整備事業である。

この道路整備事業の対象である道木佐山沼田線は、本遺跡の北東側に所在する沼田市立薄根小学校と同薄根中学校に通学する児童・生徒の通学路、南西側を経由し国道291号と接続しＪＲ上越線沼田駅・沼田市街地への高校生等の通学路としても利用されている。

平成22(2010)年度には道木佐山沼田線の交通量調査が実施された。この交通量調査結果と道路施設状況から道木佐山沼田線の改善が図られることに至った。そして、主たる改善として歩道の整備が図られ、歩行者の安全確保を目的として当該道木佐山沼田線の整備事業が計画された。

２．発掘調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は、平成24(2012)年度における群馬県沼田土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課との協議を踏まえ、平成24年11月27・28日に文化財保護課による試掘調査(担当：諸田康成指導主事)の結果、焼土・炭化物の面的分布と溝および土師器・須恵器集中出土地点が確認されたため、本調査が必要と判断された。調査

第１図　遺跡位置図(国土地理院20万分の１地形図「日光」「宇都宮」「高田」「長野」使用)

第２図　調査区位置図(国土地理院２万５千分の１地形図「沼田」使用)

は、平成25(2013)年11月の１ヶ月間、沼田土木事務所の委託を受けて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることが決せられた。

参考文献
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『年報』33

第２節　発掘調査の経過

発掘調査は、平成25(2013)年11月の１ヶ月間で297㎡を対象として実施した。11月５～８日の４日間、重機による表土層の除去を行い、溝３条、土坑３基、ピット１基を確認し、13日から各遺構の調査を行った。そして、遺構測量・写真撮影終了後の11月21日に埋め戻しを開始し、29日に発掘調査を終了した。

詳細は以下、調査日誌抄に記す。

【調査日誌抄】

11月１日(金)　調査準備。
11月５日(火)　表土除去・遺構確認開始。
11月８日(金)　表土除去終了。
11月12日(火)　遺構確認終了。
11月13日(水)　溝調査開始。
11月14日(木)　土坑、ピット調査開始。
11月18日(月)　土坑調査終了。
11月19日(火)　ピット調査終了。空中写真撮影。
　　調査区土層断面調査開始。
11月20日(水)　溝、調査区土層断面調査終了。
11月21日(木)　埋め戻し開始。
11月26日(火)　埋め戻し終了。
11月29日(金)　調査終了。

第３節　発掘調査の方法

１．調査区の設定

発掘調査にあたって、調査区は単一名称としたが、調査区のほぼ中央部を横断する埋設用水管を境界として、便宜的に北側の調査区（北）、南側の調査区（南）と呼称した。

また、調査区が道木佐山沼田線の拡幅部分であることから、歩行者等の安全確保および危険防止のため表土除去前に道路側（東側）に安全柵を設置し、埋め戻し終了後に撤去した。

２．座標の設定

発掘調査に用いた座標・グリッドは世界測地系（日本測地系2000平面角座標第Ⅸ系）を用い、10m×10mを基本とし、第６図のように設定した。なお、第Ⅸ系の原点は、北緯36°00′00″、東経139°50′00″（千葉県野田市）である。本遺跡の座標系上の位置はＸ＝73237 ～ 73330、Ｙ＝−71618 ～−71651である。遺構図中の座標の表記は、座標値の下３桁を「Ｘ軸−Ｙ軸」の順で記し、「Ｘ＝73300、Ｙ＝−71630」の場合、「300−630」のように表記した。本文中の座標については、省略せず表記した。

３．発掘調査の方法

調査の方法は以下のとおりである。

表土除去は基本的に重機（バックホー）を用いて行った。表土除去後、平面精査を行い、遺構確認を行った。確認された遺構の遺構番号は遺跡全体の通し番号とした。遺構の発掘調査は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、発掘作業員が移植鏝等で掘削し、測量・写真等で記録した（遺構測量・遺構写真撮影については後述）。埋め戻しは重機（バックホー）を用いて行った。

４．遺構測量

遺構図は断面図・平面図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40とした。平面図は測量会社にデジタル測量を委託し、断面図は発掘作業員によるアナログ測量を行ったものを測量会社にデジタル化を委託した。

５．遺構写真撮影

遺構写真は、調査担当者が撮影した。iso400ブローニー版モノクロフィルムを６×７㎝判サイズで撮影し、デジタルカメラでも撮影した（ＤＶＤに記録データを保存）。遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、全景等を撮影し、さらに必要に応じて接写を行った。また、調査区全景については、空中写真撮影を測量会社に委託した。

第４節　整理作業の経過と方法

下沼田西沢遺跡の整理作業は、平成26年度社会資本総合整備（防災・安全）事業に伴い、平成26（2014）年７月１日から８月31日までの２ヶ月間、沼田土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。作業内容は以下の通りである。

遺構図は、点検・修正・編集を行い、掲載図をデジタルデータとして作成した。遺物は、接合・復元等を行い本報告書に掲載する遺物を写真撮影・実測・トレースした後、トレース図をスキャニングしてデジタル化した。写真は、遺構・遺物ともデジタル写真から編集を行った。また、同作業に並行して土層注記・各種図表を作成した。本文原稿・遺物観察表等を執筆し、それらを合わせてレイアウトした後にデジタル編集を行い、本報告書を作成した。遺物・図面・写真等の記録資料については、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納、保管した。なお、整理作業において、遺構名等の変更は生じていない。

第２章　周辺の環境

第１節　地理的環境

１．地理的現況

下沼田西沢遺跡は沼田市の西部、ＪＲ上越線沼田駅から北に約1,800m、沼田市下沼田町に所在する。現在の沼田市は、平成の大合併で平成17(2005)年２月に、旧沼田市が旧利根郡利根村・白沢村の２村を合併して成立した。沼田市は利根沼田地域の中核都市であり、地域の産業・経済・交通等の中心である。

地域の産業構成は、『平成25年度群馬県市町村要覧』によれば、沼田市のみならず利根沼田地域全体において群馬県平均に比べ第一次産業人口の比率が高く、第二次産業人口の比率が低い。第三次産業人口においては、『平成11年商業統計調査(簡易調査)』(合併前の数値)によると利根沼田地域の約1/3を旧沼田市が占めている。

地域の交通網を見ると、鉄道では、ＪＲ上越線が通り、沼田市清水町に沼田駅が設置されている。沼田市街地は、この沼田駅より高い段丘面に位置している。道路では、国道17号がＪＲ上越線と並行して走り、下川田町交差点で北東方向に国道120号、西方向に国道145号が分岐している。さらに、国道120号からは戸鹿野町交差点で北方向に国道291号が分岐しており、分岐点から利根郡みなかみ町方面へかけて国道17号・291号とＪＲ上越線が並走している。また、関越自動車道もこれら路線の東側山麓をほぼ並走し、沼田市桜町に沼田インターチェンジ、隣接する利根郡みなかみ町政所に月夜野インターチェンジが設置されている。

２．地形的環境

沼田市周辺の地形を概観すると、赤城山・雨乞山・武尊山・迦葉山・戸神山・三峰山・子持山等に囲まれた盆地を形成し、沼田盆地と呼称されている。盆地内には利根川・薄根川・片品川・四釜川・発知川などが流れ、流域に多くの河岸段丘を形成している。河岸段丘は、更新世段丘の上位・中位・下位段丘面群と完新世段丘の最下位段丘面群に分類されている。最も広大なのは、沼田市街地も所在する片品川の河岸段丘である。

片品川の河岸段丘は、上位段丘面群の沼田面(沼田台地)・生越面、中位段丘面群の平出面・貝野瀬Ⅰ面群、下位段丘面群の貝野瀬Ⅱ面群・貝野瀬Ⅲ面群、最下位段丘面群の下沼田面・恩田面・完新世最下位段丘面群に分類される。これら河岸段丘の中で、沼田市街地の乗る沼田面が最も広く、平出面は旧白沢村地域に断片的に分布する。下沼田面は発達していない。

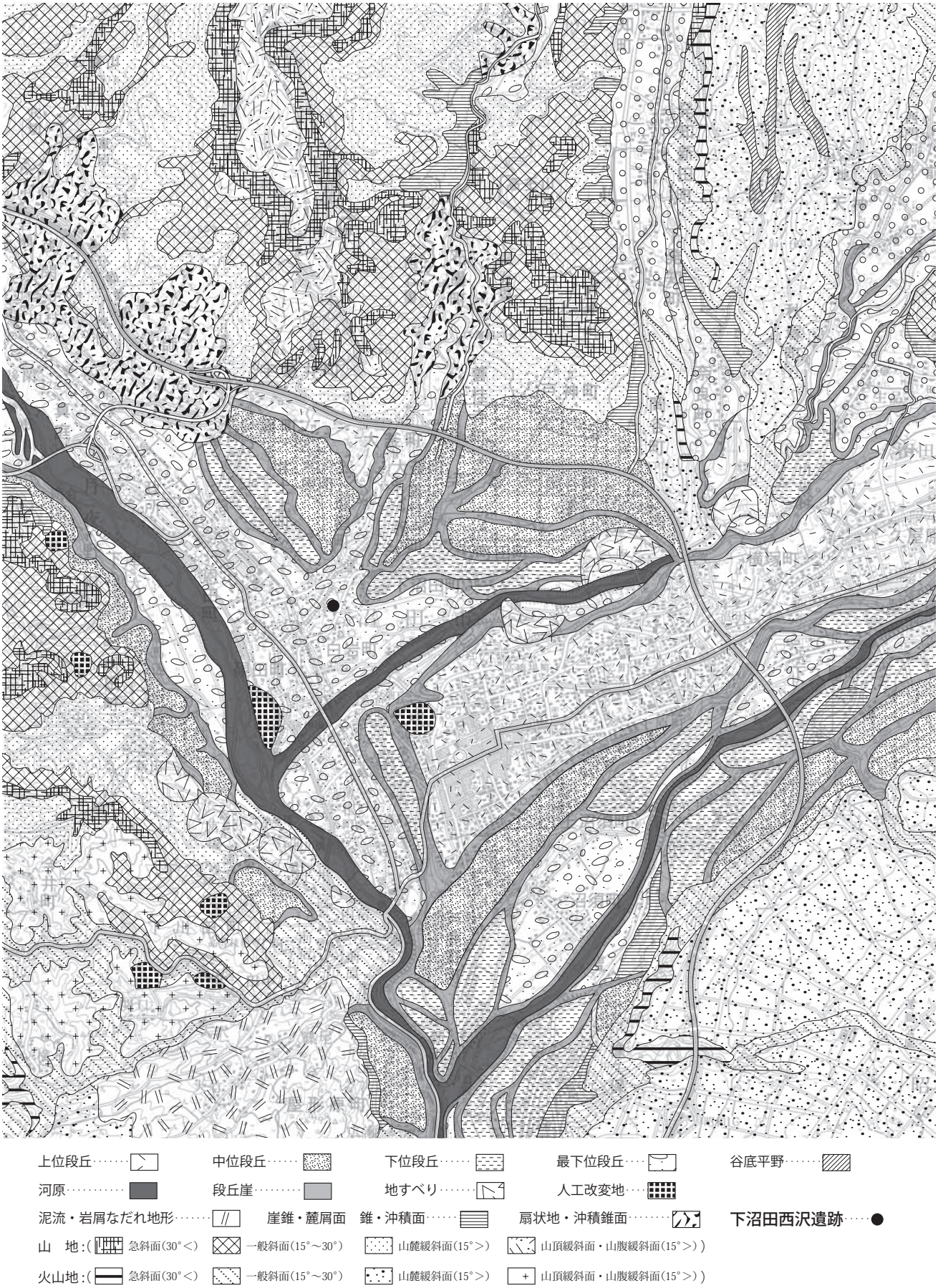
薄根川の河岸段丘は、中位段丘面群の岡谷面・原面、下位段丘面群の町田Ⅰ面・町田Ⅱ面、最下位段丘面群の下沼田面・恩田面・完新世最下位段丘面群に分類される。更新世段丘については、岡谷面が生越面、原面が貝野瀬Ⅰ面群、町田Ⅰ面が貝野瀬Ⅱ面群、町田Ⅱ面が貝野瀬Ⅲ面群にそれぞれ対比される。

利根川の河岸段丘は、右岸側に断片的に存在する。

これら河岸段丘は浸食段丘であり、最下位段丘面群を除いてローム層に覆われている。ローム層下には扇状地性の砂礫層である沼田礫層が主に沼田台地(沼田面)上部に分布している。沼田礫層は赤城山北面の赤城川の営力により堆積した砂礫層であり、およそ10万年前までに堆積し、かつては沼田盆地全域を覆っていたと推定される。沼田礫層の下には、古沼田湖に由来する沼田湖成層が形成されている。古沼田湖は赤城山の噴出物により利根川が堰き止められて形成されたが、正確な堰き止め地点は不明である。古沼田湖は少なくとも３段階の泥層−砂礫層の堆積サイクルが確認されており、古沼田湖１・古沼田湖２・古沼田湖３の３時期にわたる湖の形成が想定される。その形成年代については、古沼田湖２が15万年前と推定されているが、前後する古沼田湖１・古沼田湖３については年代不明である。

３．本遺跡周辺の環境

本遺跡周辺の土地利用状況を見ると、本遺跡は完新世の河岸段丘面である下沼田面(最下位段丘面群)の縁辺に位置し、北西側は四釜川により浸食されている。本遺跡



第３図　周辺地形図（群馬県農政部土地改良課５万分の１地形分類図「沼田」「追貝」使用）

の標高は約350mである。前述のように沼田市の西部であり、西に利根川、北から西にかけて四釜川が流れる。下沼田面はその名の示すように、本遺跡の所在する沼田市下沼田町を中心に発達している。現在の下沼田町周辺は、主に道木佐山沼田線の南東側に集落が展開し、道沿いには薄根郵便局や沼田市立薄根公民館、ＪＡ利根沼田薄根支店、コンビニエンスストア、さらに一段上の町田Ⅱ面上には沼田市立薄根幼稚園・薄根小学校・薄根中学校なども存在する。なお、集落の周囲は主に農耕地として利用されている。

参考文献
沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』自然編
群馬県企画部統計課2001『平成11年商業統計調査(簡易調査)』
群馬県総務部市町村課2013『平成25年度群馬県市町村要覧』
群馬県農政部土地改良課2000『土地分類基本調査沼田』
群馬県農政部土地改良課2002『土地分類基本調査追貝』

第２節　歴史的環境

１．旧石器時代

沼田盆地において、旧石器時代の遺跡は少ない。戸神諏訪遺跡(21)･後田遺跡(71)などでＡＴ層下位から石刃･剥片などが出土している。その他、林松衛により小坂原遺跡(35)から石刃・尖頭器、東原遺跡(39)から尖頭器、山岸遺跡(44)から石刃・尖頭器・局部磨製石斧、三峰山遺跡(第４図範囲外)から石刃・剥片・細石核などが採集されている。

２．縄文時代

縄文時代の遺跡数は多く､前代より増加する。草創期･早期の遺跡は少なく、前期・中期が最も多く、後期になると減少し、晩期は確認されていない。本遺跡周辺においては、古くは日影平遺跡(第４図範囲外)から多縄文土器・尖頭器、戸神諏訪遺跡(21)から撚糸文土器・押型文土器などが出土している。他に、石墨遺跡(24)・背戸田遺跡(52)･奈良原遺跡(第４図範囲外)･糸井宮前遺跡(第４図範囲外)などから前期、町田十二原遺跡(18)・町田手古又遺跡(20)･中原遺跡(62)･寺入遺跡(第４図範囲外)などから中期、寺入遺跡(第４図範囲外)・糸井大夫遺跡(第４図範囲外)などから後期の集落が確認されているとくに、四釜川中流右岸の寺入遺跡は沼田盆地を代表する中期の集落遺跡であり、加曽利Ｅ式期の住居形態および土器の変遷をたどる良好な資料を提供している。

３．弥生時代

弥生時代に入ると、遺跡数は一時的に減少する。前期の遺跡は確認されていない。中期の遺跡は少なく、後期後半から終末にかけて増加する傾向が認められる。川額軍原遺跡(第４図範囲外)などから中期の遺物が出土しており、後期には主に薄根川・片品川の河岸段丘上に多くの遺跡が展開し、町田小沢遺跡(19)･戸神諏訪遺跡(21)･石墨遺跡(24)・下川田平井遺跡(47)・赤坂遺跡(59)・奈良原遺跡(第４図範囲外)・日影平遺跡(第４図範囲外)などで集落が確認されている。うち、日影平遺跡の後期集落は、利根沼田地域で唯一の環濠集落である。また、石墨遺跡からは方形周溝墓も確認され、町田小沢遺跡からは、竪穴住居出土の甕内から炭化米が出土している。これらの集落遺跡の生産域は、近辺の谷地やより低い段丘面を水田として利用していたと推定される。

４．古墳時代

古墳時代の遺跡は、利根川右岸段丘面・薄根川右岸段丘面・沼田台地北辺部(沼田面)に多く分布する。とくに前期の集落は弥生時代後期から継続して営まれる集落遺跡が多い。しかし、中期に一時的に減少し、後期にやや増加する傾向が認められる。下川田平井遺跡(47)・町田十二原遺跡(18)・戸神諏訪遺跡(21)・石墨遺跡(24)などから前期、町田十二原遺跡(18)・戸神諏訪遺跡(21)・石墨遺跡(24)・諏訪原遺跡(34)などから後期の集落が確認されたほか、下川田平井遺跡でＨｒ－ＦＰ層下から小区画水田が確認されている。また、沼田盆地では５世紀以降に多くの古墳が築造されたが､その大半が円墳である。『上毛古墳綜覧』によると利根沼田地域の前方後円墳は10基が記載されている。『沼田市史』においては、10基のうちには沼田町５号古墳(101)・二子塚(薄根村１号)古墳(103)など疑問視されるものや政所沢口遺跡(68)１号古墳(古馬牧村18号古墳)のような帆立貝形古墳を含むことから、明らかに前方後円墳と推定されるものはないとしている。

後期には群集墳が形成されるが、６世紀中頃のＨｒ－ＦＰの噴火の影響で一時断絶し、７世紀に再び形成され

第４図　周辺遺跡分布図(国土地理院２万５千分の１地形図「沼田」「後閑」使用)

第１表　周辺遺跡一覧表（１）

№.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
1	下沼田西沢遺跡		○	○	○	○	○		散布地、集落	本報告書
2	塚田(利根谷地、薄根)遺跡				○				散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
3	塚田遺跡			○	○				散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
4	栄町宅地北添遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
5	滝棚遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
6	沼田城(倉内城、蔵内城)跡						○		城館	群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会2001『沼田城跡』、沼田町史編纂委員会1951『沼田町史』、山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』下
7	南明遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
8	幕岩城(箕吹城)跡						○		城館	群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田町史編纂委員会1951『沼田町史』、山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』下
9	四釜遺跡					○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
10	清水遺跡				○				散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
11	内藤陣屋跡						○		城館	群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』下
12	稲荷平(羽十二)遺跡		○	○					散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
13	小沢城跡						○		城館	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田町史編纂委員会1951『沼田町史』、山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』下
14	善桂寺(小沢、向田)遺跡		○	○	○	○	○		散布地、集落	沼田市教育委員会2003『向田遺跡』
15	新田前(屋敷添)遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
16	新田割遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
17	東原(東平)遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
18	町田十二原遺跡		○		○	○			集落	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1993『沼田北部地区遺跡群Ⅱ(町田十二原遺跡)』
19	町田小沢遺跡			○	○	○	○		散布地、集落	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1994『町田小沢Ⅱ遺跡』、沼田市埋蔵文化財発掘調査団1990『町田小沢遺跡』
20	町田手古又(町田赤坂)遺跡		○	○	○	○			散布地、集落	池田村史編纂委員会1964『池田村史』、沼田市教育委員会1997『沼田北部地区遺跡群Ⅳ(町田手古又遺跡・岡谷毛勝遺跡)』
21	戸神諏訪(土塔原、町田上原)遺跡	○	○	○	○	○			集落、社寺、墓その他	池田村史編纂委員会1964『池田村史』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『戸神諏訪遺跡』、小池雅典1993「沼田市町田上原遺跡出土の緑釉陶器と墨書土器」『群馬文化』236、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1992『沼田北部地区遺跡群Ⅰ(戸神諏訪Ⅰ遺跡)』、1993『戸神諏訪Ⅲ遺跡』、1994『沼田北部地区遺跡群Ⅲ(戸神諏訪Ⅳ遺跡)』、1995『沼田北部地区遺跡群Ⅳ(戸神諏訪Ⅴ遺跡)』、1996『沼田北部地区遺跡群Ⅴ(町田上原遺跡・岡谷十二遺跡・岡谷西原遺跡)』
22	吉田・大谷地遺跡			○		○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
23	土塔塚(薄根村10号古墳)						○		墓その他	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1995『沼田北部地区遺跡群Ⅳ(戸神諏訪Ⅴ遺跡)』
24	石墨(戸神吉田)遺跡		○	○	○	○			集落、墓その他	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1985『石墨遺跡』、沼田市埋蔵文化財発掘調査団1988『戸神吉田遺跡』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『石墨遺跡沼田チェーンベース地点Ⅰ』
25	石墨天水遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1997『石墨天水遺跡』

第２表　周辺遺跡一覧表（２）

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
26	和田(金山)遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
27	瀬久保(天水)遺跡		○	○		○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
28	瀬久保遺跡					○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
29	井土上屋敷跡						○		散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
30	稲荷遺跡					○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
31	熊野遺跡			○		○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
32	高梨子(稲荷、石原)遺跡		○		○	○			散布地、集落	沼田市教育委員会1993『稲荷遺跡』
33	荘田城(荘田館、和田屋敷)跡						○		城館	群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田町史編纂委員会1951『沼田町史』、山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』下
34	諏訪原(諏訪平)遺跡		○	○	○	○			集落	秋池武1976「諏訪平遺跡」『日本考古学年報』27、1984「諏訪原遺跡」『古墳出現期の地域性第５回シンポジウム資料』、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
35	小坂原(小塚原、道坂)遺跡	○	○	○	○	○			散布地	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
36	関口城(道坂城)跡						○		散布地	山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』下
37	田原(行人原、狐原)遺跡		○		○	○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
38	原町経塚						○		その他	沼田市教育委員会1977『群馬県沼田市原町「経塚」発掘調査報告書』
39	東原(塚井原)遺跡	○	○			○			散布地	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
40	上ノ原遺跡		○	○		○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
41	八幡平遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
42	大釜遺跡		○	○		○			集落	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『大釜遺跡・金山古墳群』、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
43	鳥居場(向井原)遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
44	山岸(山岸山)遺跡	○	○			○			散布地	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
45	森遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
46	熊野平(番場)遺跡		○		○	○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
47	下川田平井遺跡		○	○	○	○			散布地、集落、その他	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『下川田下原遺跡・下川田平井遺跡』、沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
48	宮塚遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
49	宮塚遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
50	宮塚遺跡		○			○			散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
51	滝遺跡		○			○			散布地、集落	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1990『沼田西部地区遺跡群Ⅰ』
52	背戸田遺跡		○			○			散布地、集落	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1992『沼田西部地区遺跡群Ⅱ』
53	背戸田遺跡		○						散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
54	背戸田Ⅱ遺跡		○	○		○			散布地、集落	沼田市教育委員会1199 4『沼田西部地区遺跡群Ⅲ』
55	天上遺(背戸田Ⅲ)遺跡		○						散布地、集落	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
56	上川田経塚						○		その他	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
57	下原遺跡		○	○					散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
58	上川田下原遺跡		○	○		○			散布地、集落	沼田市教育委員会1994『沼田西部地区遺跡群Ⅲ』
59	赤坂(上原)遺跡		○	○			○		散布地、集落	沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１、沼田市教育委員会1992『沼田西部地区遺跡群Ⅱ』

第３表　周辺遺跡一覧表（３）

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
60	上川田城(北城)跡						○		城館	川田村史編纂委員会1961『川田村史』、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1978『群馬県古城墓址の研究』下
61	北林遺跡		○	○			○		散布地	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
62	中原遺跡		○	○	○	○			散布地、集落	沼田市教育委員会1994『沼田西部地区遺跡群Ⅲ』
63	真政寺址		○		○	○	○		散布地、社寺	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
64	観音堂遺跡		○	○	○	○	○		散布地、集落	月夜野町教育委員会1991『町内遺跡』Ⅰ、みなかみ町教育委員会2009『観音堂遺跡』
65	政所宮前Ⅰ遺跡・政所宮前Ⅱ遺跡・政所宮前Ⅲ遺跡			○	○	○			散布地	月夜野町教育委員会2002『町内遺跡』Ⅳ
66	師屋敷跡				○	○	○		散布地、城館	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
67	師遺跡・師氏館址				○	○	○		集落、城館	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『師遺跡・鎌倉遺跡』
68	政所沢口遺跡		○	○	○	○	○	○	散布地、集落、城館、古墳、生産遺跡	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『師遺跡・鎌倉遺跡』、(株)Ｃ＆Ｐ研究所1991『月夜野町沢口製鉄遺跡の保存処理のの調査・研究報告書』、三宅敦気1990「はじまった隅田荘の発掘」『よみがえる中世』5
69	政所膳棚遺跡				○	○			散布地、集落	月夜野町教育委員会2002『町内遺跡』Ⅳ
70	後田(南)遺跡				○	○	○		散布地、集落	群馬県1988『群馬県史』資料編１、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団198788『後田遺跡Ⅱ』、古馬牧村誌編纂委員会1972『古馬牧村誌』
71	後田遺跡・金山古墳群	○	○	○	○	○	○		散布地、集落、古墳	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、1988『群馬県史』資料編１、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『大釜遺跡・金山古墳群』、1987『後田遺跡(旧石器時代編)』、1988『後田遺跡Ⅱ』、古馬牧村誌編委員会1972『古馬牧村誌』
72	師西部遺跡群		○	○	○	○			散布地、集落	古馬牧村誌編委員会1972『古馬牧村誌』、
73	四ヶ村用水						○		その他	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
74	金山鉱山跡							○	生産遺跡	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
75	三峰神社裏Ａ遺跡	○	○	○	○	○	○		散布地、集落	群馬県1988『群馬県史』資料編１、月夜野町教育委員会1986『三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡』
76	三峰神社裏Ｂ遺跡	○	○	○	○	○	○		散布地、集落	群馬県1988『群馬県史』資料編１、月夜野町教育委員会1986『三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡』
77	善上遺跡	○			○	○			散布地、集落	群馬県1988『群馬県史』資料編１、月夜野町教育委員会1986『善上遺跡』
78	大友館址	○	○	○	○	○	○	○	散布地、集落、城館、その他	群馬県1988『群馬県史』資料編１、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、古馬牧村誌編委員会1972『古馬牧村誌』、月夜野町教育委員会1986『三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡』、山崎一1978『群馬県古城墓址の研究』下
79	観音山砦址						○		城館	群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』
80	遺跡名なし		○	○	○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
81	遺跡名なし			○	○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
82	遺跡名なし			○	○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
83	遺跡名なし				○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
84	遺跡名なし				○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
85	遺跡名なし		○	○	○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
86	遺跡名なし				○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
87	遺跡名なし		○		○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
88	遺跡名なし		○		○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
89	遺跡名なし		○		○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
90	遺跡名なし		○		○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』

第４表　周辺遺跡一覧表（４）

№	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
91	遺跡名なし		○		○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
92	遺跡名なし		○		○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
93	遺跡名なし		○		○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
94	遺跡名なし				○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
95	遺跡名なし				○	○	○		散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
96	遺跡名なし		○		○	○			散布地	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
97	沼田町１号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
98	沼田町２号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
99	沼田町３号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
100	沼田町４号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
101	沼田町５号古墳				○				古墳(前方後円墳か)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
102	狐原古墳				○				古墳(円墳)	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
103	二子塚(薄根村１号)古墳				○				古墳(前方後円墳か)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
104	薄根村２号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
105	薄根村３号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
106	薄根村４号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
107	薄根村５号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
108	薄根村６号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
109	薄根村７号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
110	薄根村８号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
111	薄根村９号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
112	薄根村11号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
113	大釜漏１号古墳				○				古墳(円墳)	沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』、沼田市1995『沼田市史』資料編１
114	川田村１号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
115	川田村２号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
116	川田村３号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
117	川田村５号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
118	京塚(古馬牧村１号)古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
119	古馬牧村２号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』

第５表　周辺遺跡一覧表（５）

№	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
120	古馬牧村３号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
121	観音塚(古馬牧村７号)古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
122	古馬牧村９号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
123	古馬牧村11号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
124	二子塚(古馬牧村21号)古墳				○				古墳(前方後円墳か)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
125	狸 塚(古 馬 牧 村22号)古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
126	古馬牧村23号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
127	古馬牧村24号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
128	古馬牧村31号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
129	古馬牧村32号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
130	古馬牧村35号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
131	古馬牧村36号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
132	古馬牧村37号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
133	古馬牧村38号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
134	古馬牧村39号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
135	古馬牧村40号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
136	古馬牧村41号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
137	古馬牧村42号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
138	古馬牧村45号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
139	狐 塚(古 馬 牧 村46号)古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
140	古馬牧村52号墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
141	古馬牧村57号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
142	丸山塚(古馬牧村58号)古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
143	古馬牧村59号古墳				○				古墳(円墳)	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
144	遺跡名なし・古墳				○				古墳(円墳)	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
145	遺跡名なし・古墳				○				古墳(円墳)	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
146	遺跡名なし・古墳				○				古墳(円墳)	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
147	遺跡名なし・古墳				○				古墳(円墳)	月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』

るようになる。奈良古墳群(第４図範囲外)では59基の古墳が確認されている。奈良古墳群は薄根川・発知川合流地点の東方、東西約500m・南北約200mの緩傾斜地に位置する。『沼田市史』によると、奈良古墳群は墳丘・石室から３時期に分類され、古墳群を造営した村落社会の規模は最終段階には30家族以上となり、のちの郡郷制の１郷の核となる村落社会が奈良古墳群を造営したとする。奈良古墳群では副葬品に馬具類の多いことが特徴であり、『沼田市史』では背景として馬匹生産を生業の中核に位置づける村落社会の存在を推定している。

なお、榛名山二ツ岳の６世紀初頭の噴火に伴うＨｒ－ＦＡは沼田盆地での降下は未確認である。また、６世紀中頃のＨｒ－ＦＰは、沼田台地で20㎝ほどであるが、赤城山北西斜面の利根郡昭和村赤城原では80㎝に及ぶ堆積状況である。

５．奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上毛野国(和銅６(713)年までに上野国と改称)にあたり、『倭名類聚抄』(註１)によると、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれ(当初13郡、和銅４(711)年に多胡郡設置で14郡)、沼田市域は利根郡に属し、「利根郡」の項目には「渭田・男信・笠科・呉桃」の４郷が確認できる。そのうち渭田郷が、本遺跡の所在する薄根川右岸地域を中心に存在したと考えられる。

集落の動向に着目すると、８世紀に入ると遺跡数・竪穴住居軒数は増加し、10世紀前半までこの傾向が続くが、10世紀後半以降に減少している。『沼田市史』では、この遺跡数・竪穴住居軒数の増加・集落規模の拡大・集落分布圏の拡張には、律令政府の政治的背景があるとする。すなわち、古墳時代から続く町田十二原遺跡(18)などの「継続集落」に対し、大釜遺跡(42)などのこれまで集落の見られない地域に出現した「新開集落」があり、「新開集落」は律令制下で意図的に配置されたとされ、「継続集落」より数的にも多く、その動向は律令制の地域社会への浸透から有名無実化への変化を反映するとしている。これらの集団を支えた生産域については、沼田盆地利根川右岸側の下川田平井遺跡(47)で上層にＡｓ－Ｂ下水田と下層に洪水層下水田と、２時期の水田が確認されているが、本遺跡周辺をはじめ利根川左岸側では未確認である。利根郡には『延喜式』(註２)に記された拝志・久野・大藍の３牧、『日本後紀』(註３)に記された長野牧の推定地が存在するが、それぞれの比定地は確定的なところはない。また、戸神諏訪遺跡(21)からは、北辺約65m・西辺約80m・南辺約100mのコ字状をなす区画溝の内側から、東西24.7m・南北20.1mの方形区画をなす溝４条(部分的に３条)が確認された。この内側の方形区画の周囲からは「宮田寺」「宮寺」「造佛」「寺」「吉」「侶」などと記された９世紀後半～10世紀前半の墨書土器や、寺院の堂宇が線刻された紡錘車などの寺院関係遺物が多く出土している。このことから、『沼田市史』では内側の方形区画は寺院跡・外側のコ字状区画は寺域であり、「宮田寺」と呼ばれた寺院の存在を推定している。

６．中世

沼田盆地では天仁元(1108)年のＡｓ－Ｂの堆積は５㎝ほどである。この天仁元年の浅間山火山活動以降に上野国内での荘園開発への動きが活発になる。利根郡における荘園開発の史料を見ると、『後二条師通記』寛治５(1091)年11月22日条(註４)に土井荘、「康治２(1143)年８月19日太政官牒」(註５)に安楽寿院領土井出笠科荘の記述が見られる。土井出笠科荘は沼田市および利根郡東半部を包括する荘園である。前述の太政官牒によると、土井出笠科荘に西接する隅田荘も成立していた。この土井出笠科荘と隅田荘は13～14世紀頃には利根郡全域を領域とする利根荘に包摂されたと考えられる。

正応３(1290)年の「沼田榛名神社鐘銘」(註６)には「上野国利根荘内臼根郷春名権現」と記され、この記録から臼根郷を本遺跡周辺に推定すると当該地域が利根荘に含まれていた可能性がある。正慶２(1333)年の「沙弥具簡大友貞宗譲状案」(註７)や『中巌円月自歴譜』暦応元(1338)年条(註８)、文和３(1354)年の「大友氏時寄進状」(註９)などに利根荘の名が見られ、『建内記』正長元(1428)年５月30日条(註10)には、応永23(1416)年以後に白旗一揆(沼田氏・発智氏など)が利根荘を押領したとの記述がある。この沼田氏・発知氏であるが、沼田氏は『吾妻鏡』文治元(1185)年10月24四日条(註11)の沼田太郎が史料上の初見、発智氏は沼田氏の支族で「正安２(1300)年閏７月27日関東下知状」(註12)の発智二郎後家明法尼が史料上の初見である。

正平６(1351)年の「足利尊氏寄進状案」(註13)に沼田荘内の志加摩氏・庄田氏領を園城寺に寄進する記述、応永７(1400)年頃の「春日山林泉寺曇英禅師語録」(註14)には沼田荘牧主平景泰(沼田景泰)の名が見られる。沼田荘は沼田市西部からみなかみ町南東部(旧月夜野町)にかけての利根川左岸地域と考えられ、文安４(1447)年の「聖護院道意御教書」(註15)によると利根・沼田両荘が併存していたことがうかがえる。

このように活発な荘園の動きがある中で、沼田氏により永暦元(1160)年頃には本遺跡の北西約1,400mに荘田城(33)、応永12(1405)年には同じく北東約900mに小沢城(13)、発智氏により応永年間(1400年頃)には同じく北東約7,400mに発智館(第４図範囲外)などが築かれているが、この時期の水田・畑等の遺構は確認されていない。また、本遺跡の北東約600mの長広寺およびその周辺は沼田(下沼田)景家の景家館(下沼田城)跡と伝えられ、その西端部には近世に旗本内藤氏により陣屋が置かれた(内藤陣屋跡(11))。本遺跡周辺の沼田市下沼田町西山家墓地・片山家墓地には、南北朝時代の東北型板碑があり、群馬県内でも希少な例である。

享徳の乱(享徳３(1454)年)以後、関東地方は戦国時代に入るが、乱の中で上州白旗一揆は分裂し解体する。この頃までに発智氏は上杉氏の被官となっていた。「享禄４(1531)年10月21日長尾顕景書状」(註16)には沼田中務大輔と発智越前守の争いが「骨肉の争い」と記されている。この間、永正12(1515)年には沼田泰輝により本遺跡の東約1,400mに幕岩城(８)が築かれ、天文元(1532)年には沼田顕泰により本遺跡の南東約1,200mに沼田城(６)が築かれている。天文22(1552)年の上杉憲政の上野退去後は、北条(沼田)康元が沼田城主となるが、永禄３(1560)年に長岡景虎(上杉謙信)の関東出陣により沼田は攻略され河田長親が沼田城主となる。上杉謙信死後の御館の乱(天正６(1578) ～７(1579)年)の後に沼田地域は再び北条領となり、天正８(1580)年の武田勝頼の上野出陣により沼田は攻略され真田昌幸が沼田城主となると、翌年には由良氏の支援を得た沼田景義が旧領奪回のため沼田へ侵攻するが失敗した。天正10(1582)年３月の武田氏滅亡後、上野国は織田信長に接収され沼田城は滝川一益の甥・滝川儀太夫が城主となるが、同年６月の本能寺の変後に三度北条領となり、真田昌幸が再び沼田城主となるが、真田氏は同年９月に徳川家康に属し、天正13 (1585)年に上杉景勝に属した。その後、天正17(1589)年の名胡桃城事件、天正18(1590)年の北条氏滅亡を経て真田昌幸の嫡子・信幸(信之)が沼田城主となっている。

７．近世

本遺跡をふくむ下沼田村は沼田藩真田氏の支配下であったが、天和元(1681)年の真田氏改易により沼田城は廃城となった。以後、下沼田村は天和２(1682)年代官支配、元禄11(1698)年旗本内藤氏に属し、元禄16 (1703)年本多氏により沼田城が再興されると沼田藩に属し、享保15 (1730)年再び代官支配となるが、享保17 (1732)年黒田氏を経て、寛保２(1742)年以降に土岐氏の支配となった。本遺跡の東方約300mには、旗本・内藤正友の陣屋跡と伝えられる内藤陣屋跡(11)が所在する。内藤陣屋跡は未調査ではあるが、一部に土居らしきのもが見られる。また、三峰山・戸神山・迦葉山に金鉱脈の存在することが16世紀頃には知られ、近世には採掘も行われていたと伝えられるが、鉱山として本格的に稼働したのは近代以降、最盛期は昭和10年代であった(金山鉱山跡(74)など)。

註
(１)京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇　臨川書店
(２)黒板勝美編1974ａ『新訂増補国史大系延喜式』後篇　吉川公文館
(３)黒板勝美編1974ｂ『新訂増補国史大系日本後紀』　吉川公文館
(４)沼田市史編さん委員会1995『沼田市史』資料編１
(５)群馬県史編さん委員会1985『群馬県史』資料編４
(６)関東史料研究会編1976『上野名跡志復刻版』
(７)群馬県史編さん委員会1984『群馬県史』資料編６
(８)註(４)に同じ。
(９)川場村誌編纂委員会1961『川場村の歴史と文化』
(10)東京大学史料編纂所編1963『大日本古記録建内記』　岩波書店
(11)黒板勝美編1974ｃ『新訂増補国史大系吾妻鏡』巻一　吉川公文館
(12)註(７)に同じ。
(13)註(７)に同じ。
(14)註(４)に同じ。
(15)群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編７
(16)註(15)に同じ。

引用・参考文献
池田村史編纂委員会1964『池田村史』
川田村史編纂委員会1961『川田村史』
川場村誌編纂委員会1961『川場村の歴史と文化』
関東史料研究会編1976『上野名跡志復刻版』
京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇
臨川書店群馬県利根教育会1930『利根郡誌』
黒板勝美編1974ａ『新訂増補国史大系延喜式』後篇　吉川公文館
黒板勝美編1974ｂ『新訂増補国史大系日本後紀』　吉川公文館
黒板勝美編1974ｃ『新訂増補国史大系吾妻鏡』巻一　吉川公文館
群馬県史編さん委員会1984『群馬県史』資料編６
群馬県史編さん委員会1985『群馬県史』資料編４

群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編７
群馬県文化事業振興会1985『上野国郡村誌』12
古馬牧村誌編纂委員会1972『古馬牧村誌−月夜野町誌第二集−』
月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
東京大学史料編纂所編1963『大日本古記録建内記』　岩波書店
沼田市1995『沼田市史』自然編
沼田市史編さん委員会2000『沼田市史』通史編１
沼田市史編さん委員会2000『沼田市史』通史編２
沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
沼田町史編纂委員会1951『沼田町史』
みなかみ町教育委員会2009『旧月夜野町町内遺跡詳細分布調査報告書』
桃野村誌編纂委員会1961『桃野村誌−月夜野町誌第一集−』

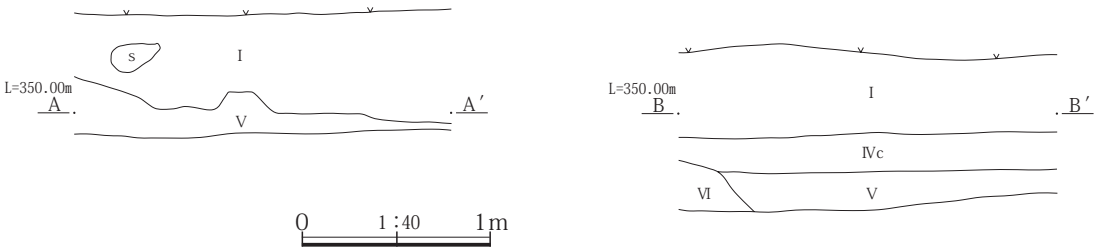
第３節　基本土層

本遺跡の表土以下の基本土層は第５図に掲げた（土層確認位置については第６図参照）。表土層下は調査区北側に一部撹乱されている箇所もあるものの、遺構の保存状態は良好である。

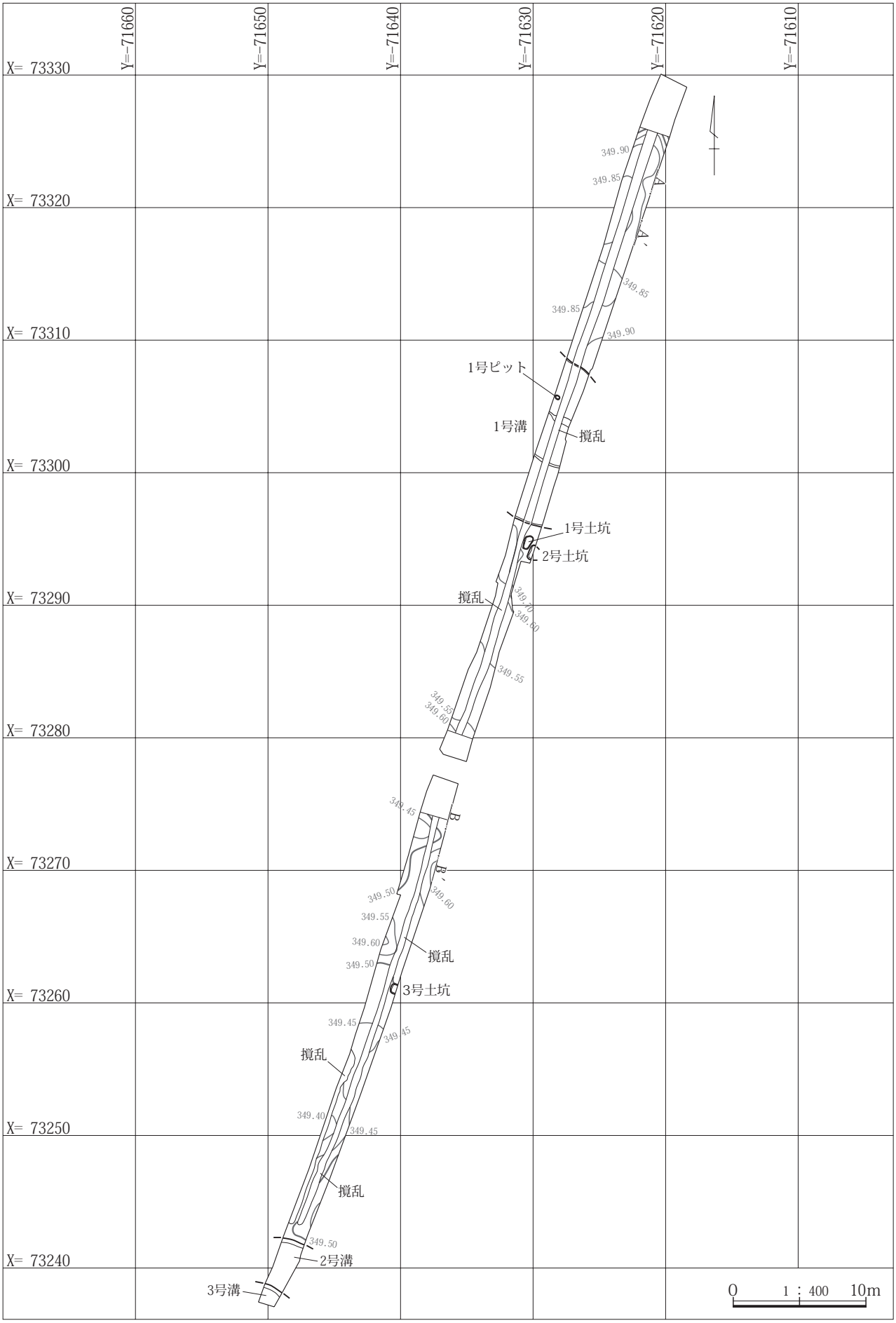
下沼田西沢遺跡における調査着手以前の地目は水田であったが、本調査の結果、表土（Ⅰ層）下に褐色土（Ⅱ層）・Ａｓ−Ｂを含む茶褐色土（Ⅲａ〜Ⅲｃ層、各５㎝程度）・Ｈｒ−ＦＰを含む暗褐色土（Ⅳａ〜Ⅳｃ層、各10〜20㎝程度）を断片的に挟み砂礫層（Ⅴ層、５〜20㎝以上）となり、その下に灰褐色粘質土（Ⅵ層、20㎝以上）が堆積していたことが確認された。調査区の北ほど断片的であり、調査区北端の基本土層Ａ−Ａ′ではⅤ層直上がⅠ層であるが、中央の基本土層Ｂ−Ｂ′ではⅣｃ層が観察され、南端の２・３号溝Ａ−Ａ′ではⅢａ層・Ⅲｂ層・Ⅳｄ層の堆積が確認された。また、完新世河岸段丘面の下沼田面上（最下位段丘面群）に位置する本遺跡においてローム層は確認されておらず、Ⅴ層以下の時期も不明である。

【基本土層】

Ⅰ層　表土（水田耕作土）
Ⅱ層　褐色土　しまり弱く、粘性あり
Ⅲａ層　茶褐色土　Ａｓ−Ｂを含み、かたくしまる
Ⅲｂ層　Ⅲａ層より砂質（Ａｓ−Ｂ多い）
Ⅲｃ層　茶褐色土　Ａｓ−Ｂ・炭化物粒を含み、しまり強く、粘性に富む
Ⅳａ層　暗褐色土　Ｈｒ−ＦＰを含み、しまりやや強く、粘性あり
Ⅳｂ層　暗褐色土　Ｈｒ−ＦＰ・礫を少量含み、しまりやや強く、粘性に富む
Ⅳｃ層　暗褐色土
Ⅳｄ層　暗褐色土　礫主体の層
Ⅴ層　砂礫層
Ⅵ層　灰褐色粘質土



第５図　遺跡基本土層断面図


Y=-71660
Y=-71650
Y=-71640
Y=-71630
Y=-71620
Y=-71610
X= 73330
X= 73320
X= 73310
X= 73300
X= 73290
X= 73280
X= 73270
X= 73260
X= 73250
X= 73240
A
A'
B
B'
349.90
349.85
349.85
349.85
349.90
1号ピット
1号溝
撹乱
1号土坑
2号土坑
撹乱
349.70
349.60
349.55
349.55
349.60
349.45
349.50
349.55
349.60
349.60
349.50
撹乱
3号土坑
349.45
349.45
撹乱
349.40
349.45
撹乱
349.50
2号溝
3号溝
0
1：400
10m

第６図　調査区全体図

第３章　確認された遺構と遺物

第１節　概要

１．遺構

今回の発掘調査では、３条、土坑３基、ピット１基が確認された。これらの遺構の時期は古墳時代後期から中世に比定される。

古墳時代後期～平安時代の遺構は、土坑３基が確認されたが、詳細な時期は不明である。

中世の遺構は､溝３条･ピット１基が確認された(うち、中世以前の溝１条を含む)。

２．遺物

縄文時代、弥生時代については遺物のみが出土した。縄文時代については、土器片および剥片が出土した。土器片の表面は著しく磨滅しており、状態は不良である。遺物は混入と考えられ、本遺跡周辺に縄文時代の遺跡が存在すると考えられる。

弥生時代の遺物は、土器片が１号溝埋没土中から数点出土した。遺物は混入と考えられ、本遺跡周辺に弥生時代の遺跡が存在すると考えられる。

第２節　溝

１号溝(第７・８図、ＰＬ．３・５)

位置　Ｘ＝73295 ～ 73308、Ｙ＝-71625 ～ 71631。

形状　平面：直線状。断面：３層の箱掘り形状。

走向方位　N-57°-W(北辺)、N-64°-W(中央部)、N-68°-W(南辺)。

規模　全長2.00m以上、幅12.10 ～ 12.58m、深さ0.68 ～ 0.75m。

埋没土層　粘質土主体。１～６層が観察された。１・２層にＡｓ-Ｂを含み、３・４層にＨｒ-ＦＰを含む。試掘調査において確認された焼土・炭化物の分布(第１章第１節参照)は、本遺構の２層上面にあたる。流水の形跡は見られない。数度の掘り返しの可能性がある。

重複　１号ピットと重複。

遺物　弥生土器の壺２点(１・２)・壺か甕１点(３)、須恵器の坏か椀１点(４)・甕１点(５)、常滑陶器の甕１点(６)、珪質頁岩製剥片１点(７)を図示した。いずれも埋没土中から出土し、弥生土器の壺(１・２)・須恵器(４・５)の出土層位は不明、弥生土器の壺か甕(３)・常滑陶器(６)・剥片(７)の出土層位は１層である。他に、土師器片22点、須恵器片２点が出土したが、小破片のため非掲載とした。

所見　走向方位(中央部)が３号溝の走向方位とほぼ平行することから何らかの関連性も考えられるが、確認された全長も短く、詳細は不明である。数度の掘り返しの可能性がある。断面形状、出土遺物、埋没土の状況、すなわち断面が三段の箱掘り形状で常滑陶器が出土し１・２層にＡｓ-Ｂを含むことから、中世と推定される。

２号溝(第９図、ＰＬ．４)

位置　Ｘ＝73237 ～ 73242、Ｙ＝-71647 ～ 71650。

形状　平面：直線状。断面：浅い皿状、南側が調査区外のため断面形状は推定。

走向方位　N-75°-W、南側が調査区外のため走向方位は推定。

規模　全長1.78m以上、幅5.20m以上、深さ0.07 ～ 0.14m。

埋没土層　暗褐色土主体。１～３層が観察された。１層にＡｓ-Ｂを含み、１～３層に礫を含む。流水の形跡は見られない。数度の掘り返しの可能性がある。

重複　３号溝と重複。本遺構が新しい。

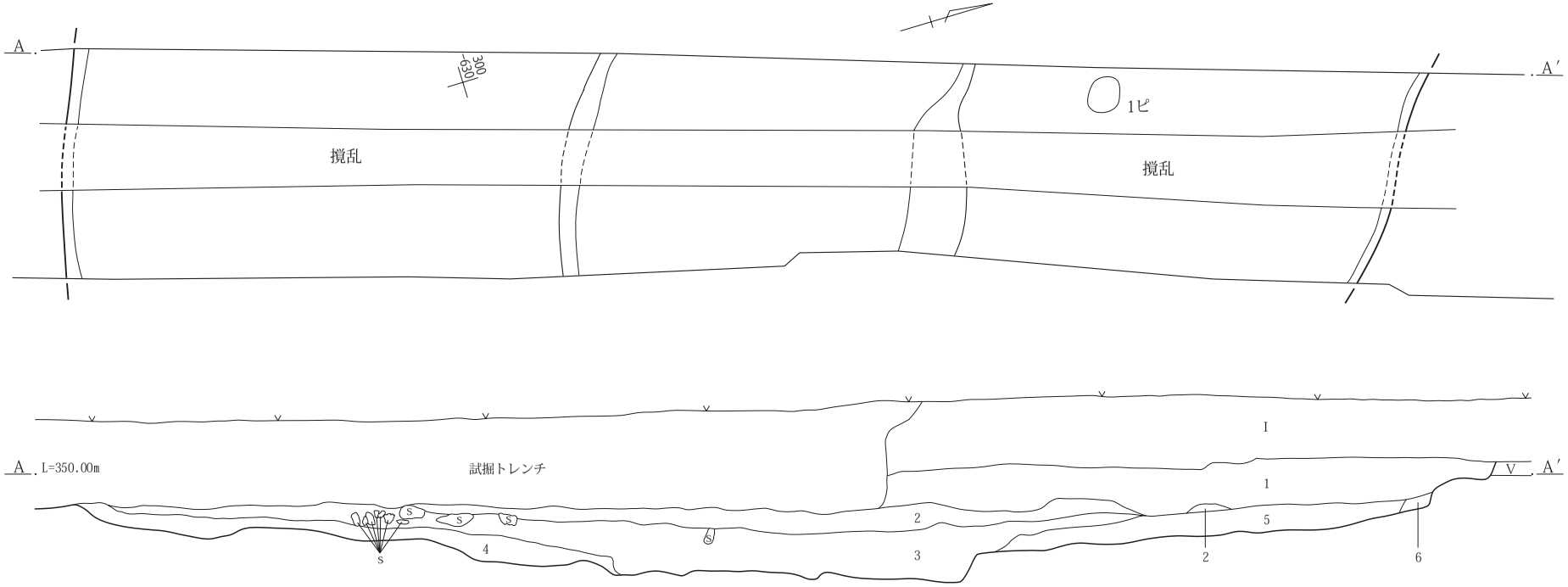
遺物　なし。

所見　埋没土の状況および断面形状から中世と推定される。

３号溝(第９図、ＰＬ．４)

位置　Ｘ＝73237 ～ 73238、Ｙ＝-71648 ～ 71650。

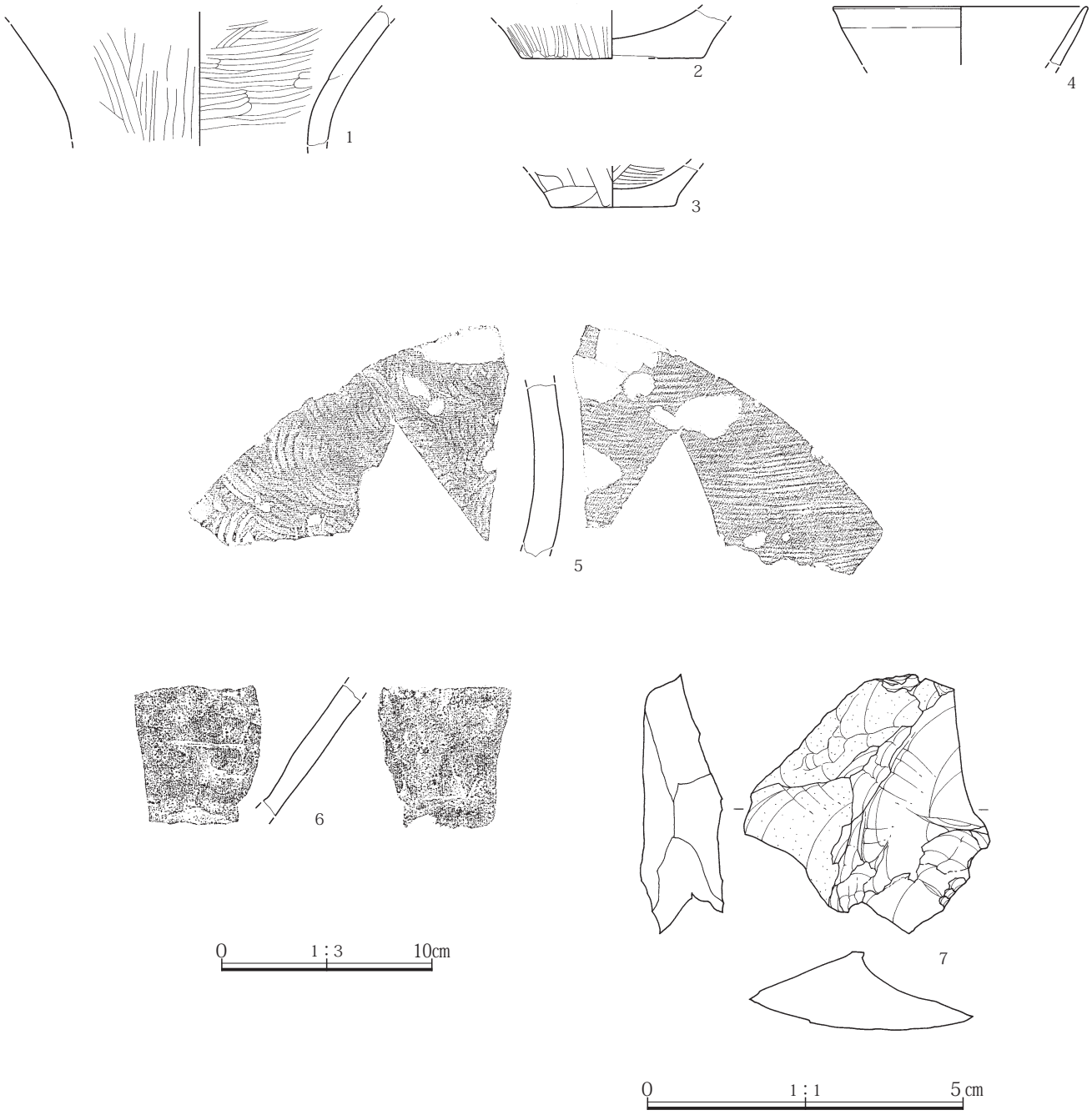
形状　平面：直線状。断面：浅い皿状、南側が調査区外のため断面形状は推定。



1号溝
1．暗褐色土　Ａｓ－Ｂを含み、しまりやや強く、粘性あり
2．黒褐色土　焼土塊・炭化物を含み、　Ａｓ－Ｂを少量含み、しまり弱く、粘性に富む
3．暗褐色粘質土　礫・Ｈｒ－ＦＰを含み、しまりやや強い
4．灰褐色粘質土　礫・Ｈｒ－ＦＰを含み、しまりやや強い
5．灰褐色粘質土　しまりやや強い
6．黄褐色粘質土　礫を含む

0　1：60　2m

第７図　１号溝



第８図　１号溝出土遺物

走向方位　N−65°−W、南側が調査区外のため走向方位は推定。

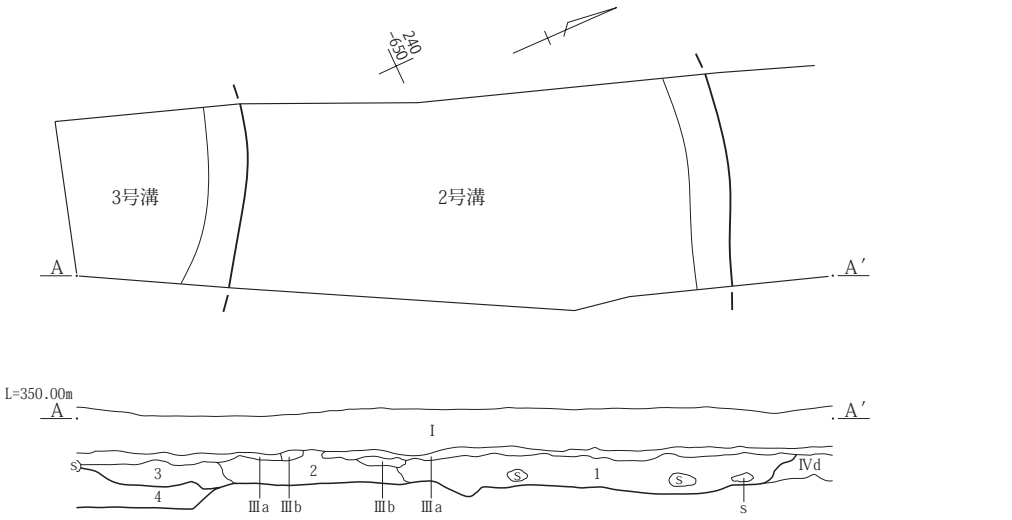
規模　全長1.50m以上、幅1.42m以上、深さ0.09～0.20m。

埋没土層　暗褐色土主体。１層（第９図の４層）が観察された。礫を含む。流水の形跡は見られない。

重複　２号溝と重複。本遺構が古い。

遺物　なし。

所見　走向方位が１号溝の走向方位（中央部）とほぼ平行することから、何らかの関連性も考えられるが、確認された全長も短く、また、本遺構の南側が調査区外のため詳細は不明である。２号溝との重複関係から、本遺構は中世以前と推定されるが、出土遺物もなく詳細な時期は不明である。



２・３号溝
1．暗褐色土　Ａｓ－Ｂ・礫を含み、しまりやや強く、粘性あり
2．灰褐色土　礫を含み、しまりやや強く、砂質
3．暗褐色土　礫を含み、しまりやや強く、粘性あり
4．暗褐色土　礫を多量含む

第９図　２・３号溝

第３節　土坑・ピット

１号土坑（第10図、ＰＬ．４）

位置　Ｘ＝73294 ～ 73295、Ｙ＝−71630。

形状　平面：不整方形。断面：底面は平坦で壁は斜位に立ち上がる。

主軸方位　Ｎ−20°−Ｅ。

規模　長軸1.04m、短軸0.62m、深さ0.20m。

埋没土層　黒褐色土主体。１層が観察された。焼土を含む。

重複　なし。

遺物　縄文土器片１点、土師器片１点が出土したが、小破片のため非掲載とした。

所見　２号土坑に隣接し主軸方位・規模・埋没土層がほぼ同じであり、３号土坑と主軸方位がほぼ同じことから、何らかの関連性があると考えられる。２・３号土坑との共通点および埋没土にＡｓ−Ｂを含まないことから、本遺構は古墳時代後期～平安時代と推定される。

２号土坑（第10図、ＰＬ．４）

位置　Ｘ＝73293 ～ 73294、Ｙ＝−71629 ～ 71630。

形状　平面：東側が調査区外のため詳細不明、推定隅丸長方形。断面：底面はやや平坦で壁は斜位に立ち上がる。

主軸方位　Ｎ−18°−Ｅ、東側が調査区外のため主軸は推定。

規模　長軸1.13m、短軸0.33m以上、深さ0.27m。

埋没土層　黒褐色土主体。１層が観察された。焼土を含む。

重複　なし。

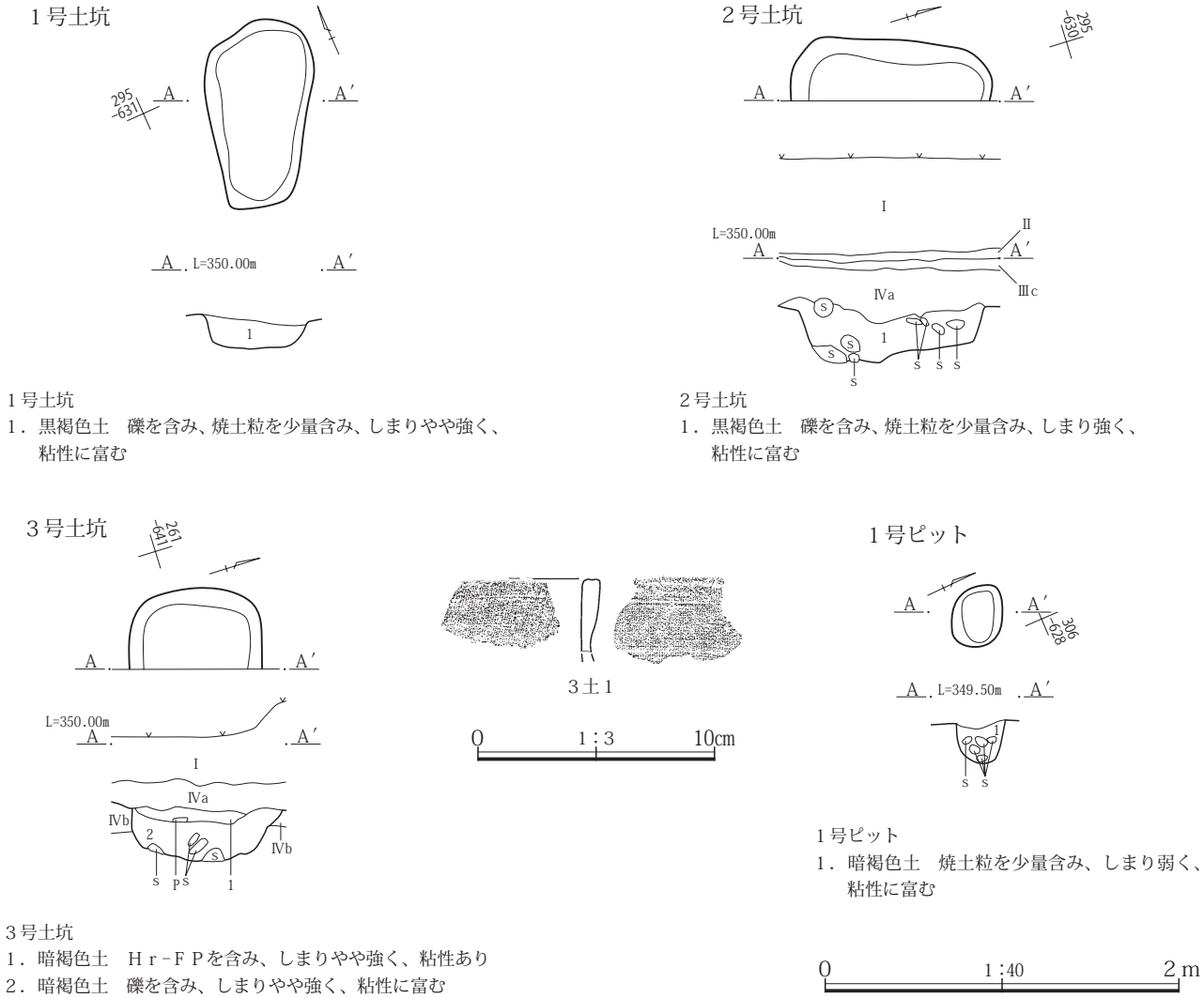
遺物　なし。

所見　１号土坑に隣接し、主軸方位・規模・埋没土層がほぼ同じであり、３号土坑と主軸方位がほぼ同じことから、何らかの関連性があると考えられる。１・３号土坑との共通点および埋没土にＡｓ−Ｂを含まずⅣａ層に覆われることから、本遺構は古墳時代後期～平安時代と推定される。

３号土坑（第10図、ＰＬ．４・５）

位置　Ｘ＝73260 ～ 73261、Ｙ＝−71640。

形状　平面：東側が調査区外のため詳細不明、推定方形



１号土坑
1．黒褐色土　礫を含み、焼土粒を少量含み、しまりやや強く、粘性に富む

２号土坑
1．黒褐色土　礫を含み、焼土粒を少量含み、しまり強く、粘性に富む

３号土坑
1．暗褐色土　Ｈｒ－ＦＰを含み、しまりやや強く、粘性あり
2．暗褐色土　礫を含み、しまりやや強く、粘性に富む

１号ピット
1．暗褐色土　焼土粒を少量含み、しまり弱く、粘性に富む

第10図　土坑・ピットおよび出土遺物

または隅丸長方形。断面：底面は丸みを帯び壁は斜位に立ち上がる。

主軸方位　N−17°−E、東側が調査区外のため主軸は推定。

規模　長軸0.76m、短軸0.46m以上、深さ0.10m。

埋没土層　暗褐色土主体。２層が観察された。１層にＨｒ−ＦＰを含む。

重複　なし。

遺物　須恵器の羽釜１点（１）を図示し、スサ状粘土塊２点（２・３）を写真掲載した。いずれも埋没土中から出土したが、出土層位は不明である。

所見　１・２号土坑と主軸方位がほぼ同じであることから、何らかの関連性があると考えられる。１・２号土坑との共通点および出土遺物、埋没土の状況、すなわち１層にＨｒ−ＦＰを含みⅣａ層に覆われることから、本遺構は古墳時代後期〜平安時代と推定される。

１号ピット（第10図、ＰＬ．４）

位置　Ｘ＝73305、Ｙ＝−71628。

形状　平面：隅丸方形。断面：底面は丸みを強く帯び壁はほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方位　N−66°−W。

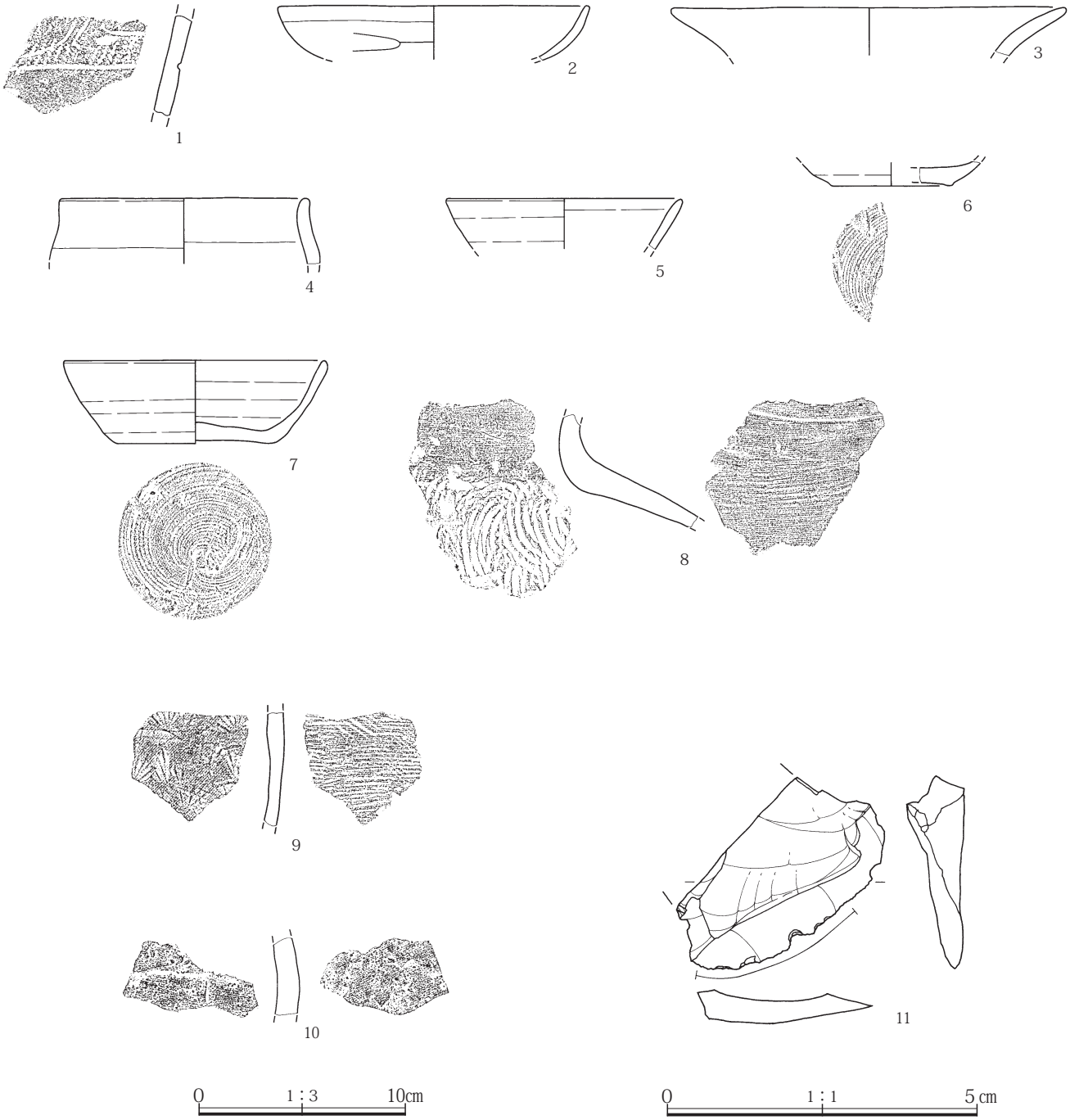
規模　長軸0.35m、短軸0.30m、深さ0.21m。

埋没土層　暗褐色土主体。１層が観察された。焼土を含む。

重複　１号溝と重複。

遺物　なし。

所見　平面形状から、中世と推定される。



第11図　遺構外出土遺物

第４節　遺構外出土遺物

（第11図、ＰＬ．６）

遺構外出土遺物は、縄文土器の深鉢１点（１）、土師器の坏１点（２）・甕１点（３）・小型甕１点（４）、須恵器の坏３点（５～７）・甕２点（８・９）、常滑陶器の甕１点(10)、珪質頁岩製剥片１点(11)を図示した。他に、土師器片20点、須恵器片２点、近世陶磁器片２点、時期不明土器片３点が出土したが、小破片のため非掲載とした。いずれも出土層位は不明である。

本遺跡の遺構外出土遺物は大半が小破片であり、器種・部位および時期を判別することが困難なものが多い。

第４章　まとめ

１．地形と遺構の概況

下沼田西沢遺跡は、沼田市下沼田町に所在する。遺跡は完新世河岸段丘の下沼田面（最下位段丘面群）の縁辺に位置し、北西側は四釜川により浸食されている。下沼田面上に立地するためロームの堆積はなく、表土（Ⅰ層）下には褐色土（Ⅱ層）およびＡｓ－Ｂを含む茶褐色土（Ⅲａ～Ⅲｃ層）、Ｈｒ－ＦＰを含む暗褐色土（Ⅳａ～Ⅳｃ層）が断片的にあり、その下に砂礫層（Ⅴ層）、灰褐色粘質土（Ⅵ層）の堆積が確認された。

本調査において確認された遺構・遺物は、古墳時代後期～平安時代の土坑３基および土器片、中世の溝３条・ピット１基および陶磁器、縄文時代の土器片・石器、弥生時代の土器片等である。

２．縄文時代

縄文時代の遺物については、土器片および剥片が出土した。縄文土器片は表面が磨滅しており、状態は不良である。本遺跡近辺に縄文時代の遺跡は確認されていないが、より標高の高い段丘上に未周知の遺跡が存在する可能性が考えられる。

３．弥生時代

弥生時代の遺物については、弥生土器３点すべてが１号溝埋没土中から出土した。縄文時代と同様に、周辺のより標高の高い段丘上に未周知の遺跡が存在する可能性が考えられる。

４．古墳時代～平安時代

古墳時代後期～平安時代の１～３号土坑が確認された。１～３号土坑の主軸方位がほぼ同じである（N-18°-Ｅ前後）ことから、何らかの関連性があると考えられるが、２・３号土坑の大半が調査区外であるため、規模・主軸方位は推定値であり、詳細は不明である。調査区内で完結する遺構は１号土坑のみであり、その他の遺構の全体像を捉えることは困難である。

当該期の沼田盆地における集落動向に着目すると、奈良時代に入ると集落規模が拡大し、集落分布圏が拡張する傾向にあることが注目される。『沼田市史』では竪穴住居の確認された遺跡から古墳時代から継続する「継続集落」と奈良・平安時代に出現する「新開集落」とし、遺跡数・竪穴住居軒数の増加・集落規模の拡大・集落分布圏の拡張には、律令政府の政治的背景があるとしている（第２章第２節参照）。

そこで、本遺跡周辺の遺跡について、未調査遺跡も多いことなども考慮に入れ、『沼田市史』の分類を基にして古墳を除く古墳時代～平安時代の遺跡（集落遺跡に限らず散布地等も含む）を「継続遺跡」、奈良・平安時代の遺跡（集落遺跡に限らず散布地等も含む）を「新開遺跡」と設定し、その分布傾向を確認してみることとする（第12図参照）。「継続遺跡」は、戸神山南麓から三峰山南西麓にかけての岡谷面・原面・町田Ⅰ面・町田Ⅱ面（中位～下位段丘面群）上および利根川左岸みなかみ町政所以北の恩田面（最下位段丘面群）上に集中し、利根川右岸の更新世段丘上に散在する。「新開遺跡」は戸神山南麓の山麓斜面から岡谷面（中位段丘面群）上にかけてと四釜川以北の利根川左岸最下位段丘面群上、利根川右岸の更新世段丘面上などでその分布域を広げている。

このような傾向に対し、古墳時代後期～平安時代の土坑３基が確認された本遺跡は四釜川左岸の下沼田面（最下位段丘面群）上に位置する。上記の遺跡集中分布域からも外れ、また、同一面上には古墳も確認されておらず、まさに孤立した立地である。より下位の恩田面以下には古墳が確認されていることから、より孤立した感がある。ここで再び視点を広げ、戸神山南麓の薄根川右岸地域を発知川との合流地点から下ると、山麓斜面から岡谷面にかけて「新開遺跡」、岡谷面・原面・町田Ⅰ面・町田Ⅱ面（中位～下位段丘面群）上に「継続遺跡」（集落遺跡＝「継続集落」が多い≒居住域か）、下沼田面上に本遺跡のみ、恩田面以下に古墳（墓域）となり、段丘面ごとに遺跡の性格が異なる様相が改めて認識される。このことからして、本遺跡を上下の段丘面に分布する遺跡とは異なる性格であ

第12図　周辺奈良・平安時代遺跡分布図
（国土地理院２万５千分の１地形図「沼田」「後閑」、群馬県農政部土地改良課５万分の１地形分類図「沼田」「追貝」使用）

ると推定される。しかし、前述のように本調査において確認された土坑３基は詳細な時期が不明であることから本遺跡を「継続遺跡」・「新開遺跡」いずれかとの明確な判断を下すことができず、遺跡の性格について積極的な評価を与えることに躊躇せざるをえない。よって、ここでは本遺跡が上下の段丘面に分布する遺跡とは異なる性格である可能性を指摘するにとどめ、今後、本遺跡本調査区周辺の発掘調査の進展を待ち改めて検討すべき課題としたい。

５．中世

中世の遺構は、１～３号溝・１号ピットが確認された。各遺構を比較すると、１号溝１層と２号溝１層がやや似ること、３号溝の走向方位が１号溝の走向方位（中央部）とほぼ平行することの２点の他に共通点はない。よって、各遺構に関連性は指摘できず、むしろ複数の時期にわたる可能性がある。このことから、本調査区周辺にも中世の遺構が展開する可能性が考えられる。また、本遺跡周辺は利根荘・沼田荘に含まれるとともに、沼田氏により本遺跡の北西約1,400mに荘田城（第４図33）、北東約900mに小沢城（第４図13）、東約1,400mに幕岩城（第４図８）が南東約1,200mに沼田城（第４図６）が築かれており、本遺跡の北東約600mの長広寺およびその周辺は沼田（下沼田）景家の景家館（下沼田城）跡と伝えられる（第２章第２節参照）。本遺跡周辺は沼田氏の拠点地域であり、中世についても周辺での発掘調査の進展が期待される。

６．近世

近世の遺物については、陶磁器片が出土している（非掲載）。本遺跡の東方約200mには内藤陣屋跡（第４図11）もあり、周辺のより標高の高い段丘上に未周知の遺跡が存在する可能性が考えられる。

７．まとめ

以上、本遺跡の調査により、沼田盆地において遺跡分布が希薄である下沼田面（最下位段丘面群）における縄文時代・弥生時代・古墳時代～平安時代・中世・近世の様相の一端を知る資料が得られた。縄文時代・弥生時代・近世については、近辺のより標高の高い段丘上に未周知の遺跡の存在が想定される。古墳時代～平安時代については、土坑３基の主軸方位がほぼ同じであること（N−18°−E前後）を確認し、また、四釜川左岸の下沼田面（最下位段丘面群）上で唯一の古墳時代～平安時代の遺跡であることを指摘した。中世については、調査区周辺により多くの遺構が存在する可能性を指摘した。

しかし、調査区の形状・面積等の制約から、本遺跡の性格が十分に解明されたとは言い難い。本調査区隣接地域の発掘調査の進展を待ち、改めて検討する必要がある。

参考文献
群馬県文化事業振興会1985『上野国郡村誌』12
古馬牧村誌編纂委員会1972『古馬牧村誌−月夜野町誌第二集−』
月夜野町教育委員会1994『群馬県利根郡月夜野町遺跡分布地図』
沼田市史編さん委員会1995ａ『沼田市史』自然編
沼田市史編さん委員会1995ｂ『沼田市史』資料編１
沼田市史編さん委員会2000『沼田市史』通史編１
沼田市教育委員会1989『沼田市の遺跡』
みなかみ町教育委員会2009『旧月夜野町町内遺跡詳細分布調査報告書』

第６表　出土遺物観察表

１号溝出土遺物

挿図 ＰＬ.Ｎｏ.	Ｎｏ.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値				胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第８図 ＰＬ．５	1	弥生土器 壺	口縁部片					粗砂粒・白色鉱物粒・雲母／酸化焔／にぶい黄橙	頸部で屈曲後、外反して立ち上がると考えられる。外面は縦位のヘラ磨き。内面は横位のヘラ磨き。	
第８図 ＰＬ．５	2	弥生土器か 壺	底部片	底	8.4			粗砂粒・白色鉱物粒・雲母／酸化焔／にぶい橙	胴部外面は縦位のヘラ磨き。底部外面はヘラナデ。内面も丁寧なナデ。	
第８図 ＰＬ．５	3	弥生土器か 壺か甕	底部片	底	5.7			粗砂粒・白色鉱物粒・雲母／酸化焔／にぶい橙	胴部外面は縦位・横位にナデ。底部外面はヘラナデ。内面は磨き状のヘラナデ。	内面は炭素吸着。黒色味。
第８図 ＰＬ．５	4	須恵器 坏か椀	口縁部片	口	11.8			白色・黒色鉱物粒／還元焔／灰白	ロクロ整形(右回転)。	
第８図 ＰＬ．５	5	須恵器 甕	胴部片					黒色鉱物粒／還元焔・やや軟質／浅黄	紐づくり後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文状の当て具痕。	
第８図 ＰＬ．５	6	常滑陶器 甕か	胴部片					／／黄灰	内外面は工具によるナデ。	中世。
第８図 ＰＬ．５	7	剥片石器 剥片		長 幅	4.1 3.9	厚 重	1.3 13.4	珪質頁岩／／	打面を転移して剥離された剥片。	

３号土坑出土遺物

挿図 ＰＬ.Ｎｏ.	Ｎｏ.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値				胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第10図 ＰＬ．５	1	須恵器 羽釜	口縁部片					石英粒多／酸化焔ぎみ／暗灰黄	口縁部は短い。鍔部欠損。ロクロ整形。	
ＰＬ．５	2	スサ状の粘 土塊		縦 横	4.0 3.6	厚 重	1.9 17.6	／／橙	禾木科植物の繊維が含まれているが砂粒の含入は比較的少ない。	
ＰＬ．５	3	スサ状の粘 土塊		縦 横	3.1 5.1	厚 重	1.8 18.22	／／明赤褐	禾木科植物の繊維が含まれているが砂粒の含入は比較的少ない。一部平坦面を有する。	

遺構外出土遺物

挿図 ＰＬ.Ｎｏ.	Ｎｏ.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値				胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第11図 ＰＬ．６	1	縄文土器 深鉢	胴部片	口 底	― ―	高	―	／／	浅い沈線による区画文内にＬＲ縄文を充填施文する。内外面共に風化により磨耗。胎土に石英や安山岩粗砂が中量混入。	堀之内２式
第11図 ＰＬ．６	2	土師器 坏	破片	口	14.8			粗砂粒／酸化焔／橙	小破片からの作図。口径は小さくなる可能性あり。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第11図 ＰＬ．６	3	土師器 甕	口縁部片	口	18.6			粗砂粒／酸化焔／明赤褐	小破片からの作図。口径は大きくなる可能性あり。内外面は横ナデ。	
第11図 ＰＬ．６	4	土師器 小型甕	口縁部～胴部上位	口	11.8			粗砂粒／酸化焔／橙	口縁部はロクロ整形。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面摩滅。
第11図 ＰＬ．６	5	須恵器 坏	口縁部片	口	11.2			黒色鉱物粒少／還元焔／灰	ロクロ整形(右回転)。	
第11図 ＰＬ．６	6	須恵器 坏	底部1/3	底	6.0			粗砂粒少・白色鉱物粒少／還元焔／灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗。
第11図 ＰＬ．６	7	須恵器 坏	口縁部3/4欠	口 底	12.4 7.6	高	3.9	粗砂粒・白色鉱物粒／酸化焔／橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第11図 ＰＬ．６	8	須恵器 甕	頸部～胴部上位片					白色・黒色鉱物粒／還元焔／灰白	紐づくり後、叩き整形。外面は平行叩き目後、ナデ調整。内面頸部は横ナデ。胴部は青海波文状の当て具痕。	
第11図 ＰＬ．６	9	須恵器 甕	胴部片					白色鉱物粒少／還元焔／灰	詳細な部位不明。紐づくり後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕の上にナデを重ねる。	
第11図 ＰＬ．６	10	常滑陶器 甕か	胴部片					／／	内外面は工具によるナデ。	中世。
第11図 ＰＬ．６	11	剥片石器 剥片		長 幅	(3.1) (3.4)	厚 重	(0.9) 4.2	珪質頁岩／／	左半部の折れは同時割れの可能性がある。端部に刃こぼれ状の微小剥離痕が認められる。	

抄　録

書名ふりがな	しもぬまたにしざわいせき
書名	下沼田西沢遺跡
副書名	社会資本総合整備(防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第590集
編著者名	田村博
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20141017
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-２
遺跡名ふりがな	しもぬまたにしざわいせき
遺跡名	下沼田西沢遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぬまたししもぬまたまち
遺跡所在地	群馬県沼田市下沼田町
市町村コード	10206
遺跡番号	N0243
北緯(世界測地系)	36°39′29″
東経(世界測地系)	139°01′56″
調査期間	20131101-20131130
調査面積	297㎡
調査原因	道路改築
種別	散布地／集落
主な時代	縄文／弥生／古墳／奈良・平安／中世
遺跡概要	散布地-縄文-土器＋石器／弥生-土器／集落-古墳・奈良・平安-土坑３-土器／中世-溝３＋ピット１-陶磁器
特記事項	
要約	古墳時代から中世にいたる複合遺跡である。古墳時代後期～平安時代の土坑３基、中世の溝３条、ピット１基を確認した。

写 真 図 版

1．調査区遠景(南東より)

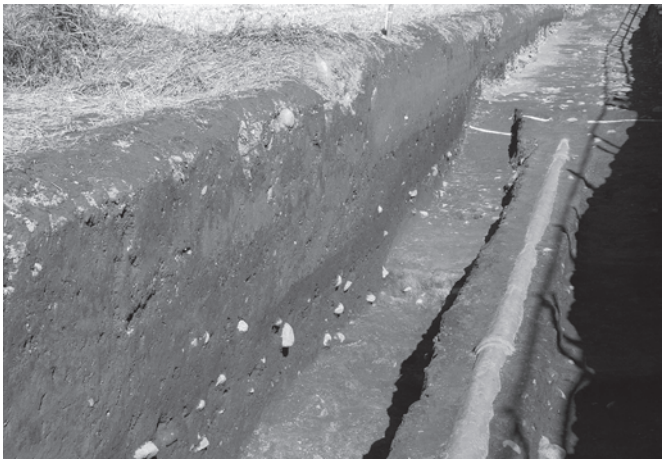
2．調査区近景(南西より)

1．調査区全景（上空より）

1．調査区(北半)全景(南より)

2．調査区(南半)全景(南より)

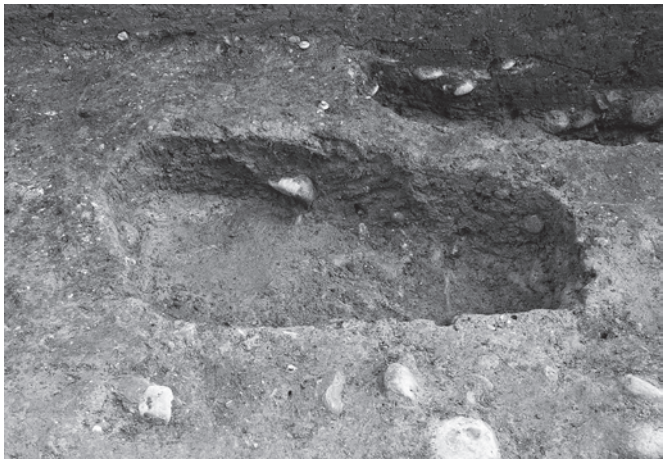
3．1号溝全景(南より)



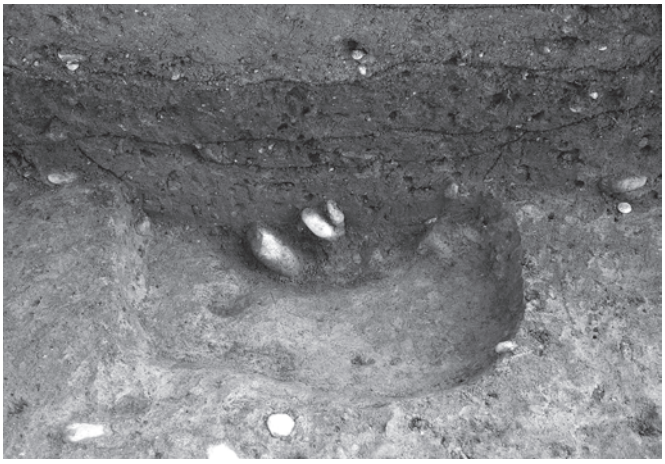
4．1号溝土層断面(南東より)

5．1号溝焼土分布状況(南より)

1．2・3号溝全景(南西より)



2．1・2号土坑全景(西より)



3．3号土坑全景(西より)

4．1号ピット土層断面(西より)

5．調査風景(西より)

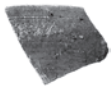
1．調査区(北半)土層断面(西より)

2．調査区(南半)土層断面(西より)

1溝2

1溝2

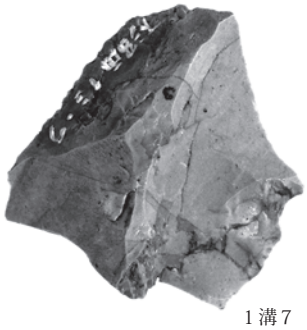
1溝3



1溝4

1溝5

1溝6



1溝7

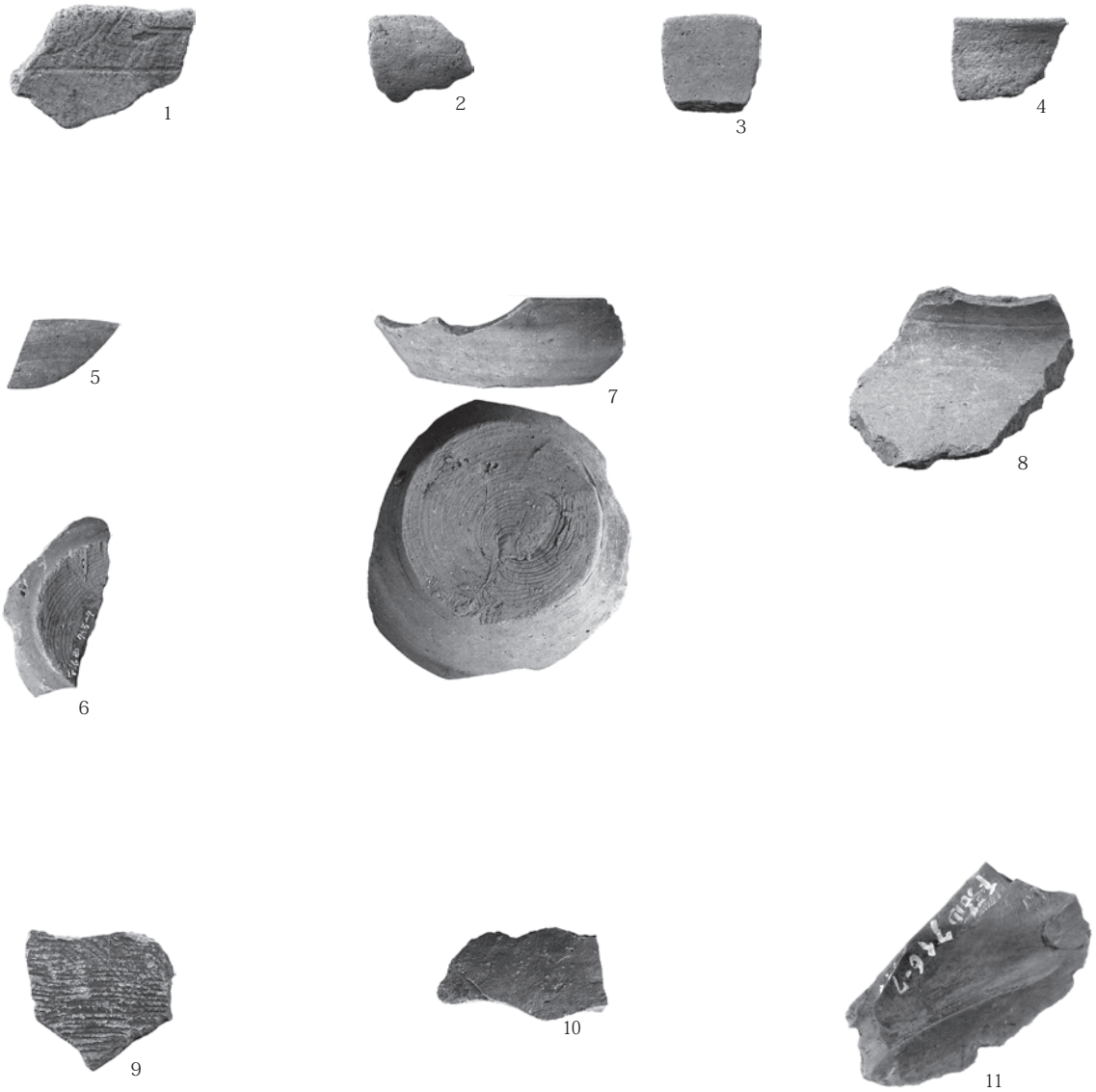
3土坑1

3土坑2

3土坑3

3．1号溝・3号土坑出土遺物

PL.6



遺構外出土遺物

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第590集

下沼田西沢遺跡

社会資本総合整備(防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成26(2014)年10月10日　印刷
平成26(2014)年10月17日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上毎印刷工業株式会社